

子どもの目線に立ったデザインで、安全・安心な社会づくりを目指します！

NPO キッズデザイン協議会

NPO キッズデザイン協議会の概要

キッズデザイン協議会は、子どもの安全・安心と健やかな成長発達に資する社会の実現に向け、有志の企業・団体が集い、経済産業省などとの連携のもと、2006年5月に発足し、2007年4月に内閣府よりNPO法人としての認証を受けました。協議会は会員からの会費で運営していますが、参画する企業や団体、自治体などは増え続け、2007年9月の時点で発足時の2倍以上となる67もの会員が登録しています。事業の柱となるものは、子ども目線でのもの・コトづくりを推進していくことを目的とした調査研究事業、そうした調査研究などをベースにした成果物を表彰し、マークを付与する顕彰事業、そして広報事業の3つです。

設立の背景

子ども（1～19歳）の死亡原因は、この40年もの間、病気ではなく「不慮の事故」が第1位となっています。なかでも家庭内や商業施設など、身近な場所で予期せぬ事故が起こっており、過去に類似の事例も多く、知っていれば防ぎ得た事故や、子どもがユーザーだと想定していなかったものによる事故もあります。産業界にも生活者にもかなり浸透した概念であるユニバーサルデザインは、“使う人（ユーザー）がどんな人でも使いやすいようにする設計や工夫（デザイン）”であるのに対し、キッズデザインは“ユーザーはもちろん、特に子どものように、直接ユーザーではない人にも配慮するようなデザイン”にも目を向けるところに特徴があります。子どもの目線に立った（Through Kids Eyes）デザインの開発・推進により、子どもの事故を予防し、社会全体の安全・安心の向上を目指すこと、それがキッズデザインなのです。

事業活動：調査研究

協議会の活動の柱の一つとなるものは調査研究事業で、次の5つの研究会を実施しています。

- ①子どもに関する事故情報を元に、もの・コトづくりへの活用を考案する「事故サーベイランス」
- ②体系立てて蓄積することが困難だった子どもの身体

特性を計測し、その分析、活用を考案する「子ども身体特性計測」

③日常の子どもを「見守る」ための情報収集・提供を行うとともに、子ども自身が「身を守る」ことを考案する「子どもみまもり」

④子どもの健やかな成長発達のための教育プログラムの研究・開発を行う「次世代育成プログラム」

⑤子どもの健全な成育を促す環境や空間に関する情報収集・提供を行い、製品・サービス開発に活用する「子ども住空間」

これら各研究会においては、事業化はもちろん、各研究会横断プログラムや会員内コラボレーションなど、今後の展開も見据えながら、活発に活動を重ねています。

顕彰事業～キッズデザイン賞の創設

もう一つの主要な事業が、顕彰事業（キッズデザイン賞）です。キッズデザイン賞は、企業などの製品や設備、施設等の「形のあるもの」のデザインから、企業や自治体のサービス、取り組みや活動など、「形のないコト」まで、あらゆる分野・領域を公募し、表彰する制度です。受賞した作品にはKDマーク（キッズデザインマーク）が付与されます。KDマークが子どもにとっての安全・安心と健やかな成長発達につながる目印となることを目標にしています。

社会をやさしくするデザイン

子どもたちは、通常、大人のためにデザインされた製品や空間に囲まれた生活環境におかれています。その多くは、子どもの事故の現状を見るまでもなく、子



■図1：キッズデザインマーク



■写真 1・2・3
キッズデザイン大賞
(株) ジャクエツ
「安全な子ども環境への取り組み」

子どもが触れうるという前提での配慮がなされていません。そこで協議会では、子どもへの目線を持ったデザイン開発・普及を進め、ヒューマンエラーの予測、わかりやすさの向上、段差や鋭利な角の解消による大きな(重篤な)事故の予防など、子どもにとっての安全性の向上を目指し、ひいては、それを高齢者や障害を持った方をはじめとした、より多くの大人の安全性、使いやすさにもつなげていきたいと考えています。つまり、キッズデザインはすべての人への思いやりのデザインであり、キッズデザインの製品やサービスの開発や普及を進めていくことが、社会全体の安全・安心な生活環境の創出につながると考えています。

そしてキッズデザインのもう一つの側面が、次世代を担う子どもたちの感性・五感を育む製品やサービス、施設や取組などのデザインです。子どもたちが楽しみながら感受性・創造性・好奇心などを育てられる環境を創り出すことにより、豊かな感性を備えた、もの・コトの作り手・使い手になってほしいと考えています。

キッズデザイン賞とキッズデザイン博 2007

第1回となったキッズデザイン賞には、287点の応募が寄せられ、その中からキッズデザイン大賞、金賞、

部門賞、審査委員長特別賞といった特別賞を含めて、キッズデザイン賞受賞作品、計121点を選出されました。受賞作品にはKDマークの使用が認められます。

キッズデザイン賞受賞作品の発表は、受賞作品全点を見て、触って、感じられる展示会「キッズデザイン博 2007」(2007年8月)において行われ、4日間で3000人を超える来場がありました。この展示会では、受賞作品の展示とともに、親子で参加できるワークショップを多数展開し、楽しみながら安全について学んだり、感性・五感を育んだりでき、会場は常に子どもたちの熱気と歓声に満ちていました。

第1回キッズデザイン賞～主な受賞作品

●キッズデザイン大賞

大賞を受賞したのは、(株)ジャクエツ「安全な子ども環境への取り組み」です。保育園や幼稚園の施設の開発・販売とともに、自ら園の経営を行う同社は、独自に事故情報や“ヒヤリハット”(起こりそうになった)情報を収集、分析して、対策を講じる活動を永年続けています。事故情報は『ヒヤリハット報告書』としてまとめられ、社内で商品開発などの事業に活かされるとともに、広報誌などを通じて社外にも情報提供

されています。この取り組みが、キッズデザインの考え方である「子ども目線のものづくり」と通じており、高く評価されました。

●金賞

金賞（テーマ賞）を受賞したのは、次の6作品です。

- 安全な環境のデザインに優れた「セーフティデザイン賞」には、幼児用マーカー「キンダーマーカーたふっこ」が選ばれました。キャップには通気孔があり、誤って飲み込んでしまっても窒息を防ぐ設計になっています。
- 感性を育みやすい環境のデザインに優れた「感性創造デザイン賞」に、「ふじようちえん」が選ばれました。特徴的なドーナツ型の屋上は、子どもたちが自由に走り回れるデザインで、各部屋を仕切る壁はなく、開放的な構造です。
- 作り手と使い手の密なコミュニケーションによるデザインに優れた「共創デザイン賞」には、「壱岐南小学校ピオトープ」が選ばれました。地域生態系の再生と、子どもの生態系学習を目的として、福岡の小学校と九州工業大学の連携により、校庭に作られたピオトープで、子どもの遊びの発見と環境学習とが両立される取り組みが評価されたものです。
- 自然への共感に向けたデザインに優れた「エコデザイン賞」には、「フォレストファーム」が選ばれました。身近にある石や動植物などの自然物を見たり、探したり、触ったり、そして自然物を使って創作しながら自然や地球環境を考えるワークショッププログラムです。
- 社会との調和に向けたデザインに優れた「社会教育デザイン賞」としては、野村ホールディングスの「中学生向け社会科公民の副教材『街のTシャツ屋さん』および金融経済教育の是非を問う対話型コミュニケーション」が選ばれました。身近なTシャツを作ることを題材に、原料調達から起業、貿易に至るまでを、ストーリー性を持って実践し、金融や経済を学べる点が評価されました。
- 生み育てやすい環境のデザインに優れた「マタニティデザイン賞」には、「ドクターベッタ哺乳びん」が選ばれました。人間が自然に行ってきた母乳授乳の姿勢を実現することにより、耳管へのミルクの流れ込みを防ぐとともに、空気をミルクと一緒に飲みにくい形で、乳児のげっぷが抑えられます。



■写真4：マタニティデザイン賞 ドクターベッタ哺乳びん

8月8日はキッズデザインの日=無限大

協議会のアドバイザーである経済産業省では、第1回キッズデザイン賞受賞作品の発表の日であった8月8日を「子どもたちの安全・安心の向上と健やかな成長発達の推進に向けて子ども目線で社会を見つめ直す日」として『キッズデザインの日』に制定しました。8月8日は、ひなまつり（3月3日）と子どもの日（5月5日）を合わせた日であり、さらに“8”という数字を横に見ると∞（無限大）となることから、「子どもたちの無限の可能性を再認識する」という意味も込められています。協議会においてもこの8月8日を挟んだ前後1週間を『キッズデザイン week』とし、毎年キッズデザイン博や運動イベントなどを行うことになりました。

ここでご紹介した様々な活動は、まだ始まったばかりですが、これからも事業活動を通じて、大人のためにデザインされた生活環境にある多くの製品やサービスを子ども目線で見直し、子どもたちにとっての安全・安心の向上、そして社会全体の安全・安心の向上につなげていきたいと考えています。

キッズデザインに満ちあふれた豊かな社会をデザインする一翼を担い、安全・安心な社会の実現を目指して！

キッズデザイン博 2008

日 時：2008年8月4日（月）～10日（日）
10:00～17:00（最終日のみ16:00終了）
会 場：機械産業振興記念館
（青山TEPIA / 東京都港区北青山2-8-44）
入場料：無料